

「あまりそう思わない」と回答したご意見では、「授業の進行状況を見ていないから」「貴重な時間を犠牲にしてやる内容ではないから」などという回答もありました。この内容では、学力テストがプロジェクト期間中に行われたことに対する懸念も含まれているようでした。しかし、ある保護者のご意見にこんな記述もありました。「「どんな経験も決して無駄になることはないと思います。」」昨今は「使えない」という言葉が私たちの世代でよく使われるように、役に立つか否かで物事を判断する傾向にあるとおもいます。それは、「自分にとって」役に立つかどうかという、自己中心的な意見でもあります。決してプロジェクトに対して弁護するわけではありませんが、「仲間」「協力者」という多くの人が関係して成し遂げられる事に対し、決して学力向上という点のみから語るには無造作すぎるのではないかと思います。しかし、多くの協力者の方々がこの企画を「児童にとって」のみではなく「自分の参加した授業」として印象づけて頂いたことに深く感銘を受けました。

プロジェクトの内容についての振り返り

このプロジェクトの内容について振り返りを行いました。本当に児童や協力者と作品を共有できたのでしょうか。企画内容は決まっていたものの、本当に「私」の想いや構想を「公」に還元できたのでしょうか。この世に無駄なものなどないと分かってはいても、もっといい提案はできないものなのか、今後の実践のためにも振り返りをしたいと思います。さて、児童にとって、協力者にとって有意義であった授業項目は一体何なのでしょう。また、児童の心に響くことのできた内容とは一体何なのでしょう。

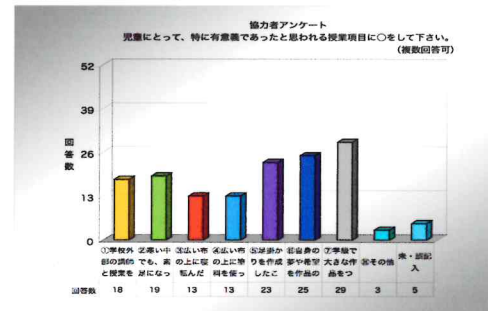
- ①寒い中でも、がんばってはだして授業をしたこと。
- ②ゲストの先生といっしょに授業をしたこと。
- ③広い布で何かをしたこと。
- ④広い布の上にねころんだり、空気をつかまえたり、ジャングルジムにまきつけたりしたこと。
- ⑤大きな絵をかいたこと。
- ⑥広い布の上に絵をかいたり、色をつけたりしたこと。
- ⑦手形足形を押したこと。
- ⑧足がかりを作ったこと。
- ⑨大人の人とやりとりをしたこと。
- ⑩自分の夢や思いを発表したこと。
- ⑪クラスのみなどと大きな作品をつくったこと。
- ⑫その他

ここに挙げた二つのグラフは、児童アンケートにおいて「勉強になった」項目と「もう一度やりたい」項目を全て選んでもらったものです。似た質問ではあったのですが、結果からも分かるように彼らの率直な意見が反映されていると思います。「勉強になったこと」「もう一度やりたいこと」の一番多かった内容は、「「クラスのみなどと大きな作品を作ること」」でした。次いで「勉強になったこと」は、足掛かりを作ったことです。さらに、寒い中でのワークショップや作品作りなど寒稽古のような授業が印象に残っているようです。最低気温マイナス0.2度の日の一時間目から三時間目までの授業もありました。どちらも勇気と努力の必要な項目だと思います。本当によくがんばりました。そして、「もう一度やりたいことは「寒さを耐えること」「勇気のいるコミュニケーション」の要素を除いた、「布と身体のワークショップ」であるということです。最終展示の日のインタビューでも「布をジャングルジムに巻き付けたのが面白かった！」「布に寝転んだのが気持ちよかった！」という声をたくさん聞きました。また、「ゲストの先生と一緒に授業をすること」という項目にもたくさんの回答がありました。新しい出会いは新しい自分の発見を生む大きな要素であると改めて実感しました。

「大きな作品を仲間と作ること」、私は今まで演劇や創作ダンスを通して体感してきました。この感動や思い出は、作品の大きさ以上に言葉にはできない参加した者だけにしか分からない一体感を時を超えて与えてくれるのだと思います。そして、身体の解放と未知の世界へ踏み

出す勇気、「勉強になったこと」と「もう一度やりたいこと」の極端な回答の違う項目こそ彼らにとって、印象の深い意義ある項目だったのではないかと思います。ある協力者の回答に「子供達の意見が反映されていない押しつけの企画」であるという意見がありました。しかし、私は脚本のある芝居のように、新たに創作を行う芝居のように、振り付けのあるダンスのように、新たに創作を行うダンスのように、ある決められた企画の中で彼ら自身が自分の言葉や体で表現を始めるまで道しるべのように展開を導く必要があると思います。発想や自由さを取り上げたりは決してしません。自由さにも制約をもうけ彼らの身動きがとれるように手を取りたいと思うのです。私もそうであるように、自分で発想した体や言葉は誰にも止められないからです。そしてそれはいつか、そして今も尊重してくれる大人がたくさんいると信じています。私もそうやってたくさんの先生や仲間、諸先輩に家族に導かれて今を生きています。彼らもきっと分かってくれていると思います。

さらに、協力者に対しても同様の質問を行いました。



- ①学校外部の講師と授業を行ったこと。
- ②寒い中でも、素足になったり体全体を使ったりして授業を行ったこと。
- ③広い布の上に寝転んだり、空気をつかまえたり、ジャングルジムにまきつけたりしたこと。
- ④広い布の上に塗料を使って大きな絵をかいたこと。手形足形を押したこと。
- ⑤足掛かりを作成したこと。(大人とのコミュニケーションをはかったこと。)
- ⑥自身の夢や希望を作品の前で発表したこと(授業参観にての作文発表)。
- ⑦学級で大きな作品をつくったこと。
- ⑧その他

若干の項目の違いはあるが、面白いことに、児童アンケートの「勉強になったこと」と同様の棒グラフの値となっています。しかし、「身体と布のワークショップ」に関しての印象は協力者よりも体感した児童の印象の方が強かったよう

